

マルコ 6 章 14～29 節 バプテスマのヨハネの死

バプテスマのヨハネは、自分の弟子たちやユダヤ人に向かってイエス様をメシアとして指し示し続けました。そして、彼が殉教を遂げた頃、イエス様が宣教活動を本格化させました。これらのことは、すでにマルコの福音書 1 章で皆さんと学びました。今日の聖書箇所には、ヨハネが殉教を遂げた経緯が書かれています。最初に、みなさんとごいっしょに、今日の聖書箇所を順番に読み進めていきましょう。次に、バプテスマのヨハネの死がわたしたちに語りかけることについて、3つのポイントを確認します。最後に、その3つ目のポイントについて詳しく学ぶことにしましょう。

なぜヨハネは命を狙われたのでしょうか。14 節から 16 節までを読みましょう。14 さて、イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にも入った。人々は言っていた。「バプテスマのヨハネが死人の中からよみがえったのだ。だから、奇跡を行う力が彼のうちに働いているのだ。」15 ほかの人々は、「彼はエリヤだ」と言い、さらにほかの人々は、「昔の預言者たちの一人のような預言者だ」と言っていた。16 しかし、ヘロデはこれを聞いて言った。「私が首をはねた、あのヨハネがよみがえったのだ。」ヘロデ王とは、ガリラヤ地方とペレア地方を治める領主ヘロデ・アンティパスのことです。以下、ヘロデと呼びます。16 節を読む限り、ヘロデは「エリヤのような素晴らしい預言者ヨハネを、私は殺してしまった。この自分を裁くために、ヨハネが化けて出てきた。」と言っているようです。日本人の感覚で言えば“ヨハネを殺した罰（ばち）が当たるにちがいない”と恐れているのでしょうか。17 節から 18 節までを読みましょう。17 実は、以前このヘロデは、自分がめとった、兄弟ピリポの妻ヘロディアのことで、人を遣わしてヨハネを捕らえ、牢につないでいた。18 これは、ヨハネがヘロデに、「あなたが兄弟の妻を自分のものにするのは、律法にかなっていない」と言い続けたからである。ある歴史家によれば、ヘロディアは、もともとヘロデの異母兄弟ヘロデ・フィリポの妻でした。この 2 人の間にはサロメという娘がありました。ヘロデは、既婚者であるヘロディアを妻としたかったために、自分の妻を離縁してしまいました。このヘロデとヘロディアの結婚は律法に違反していました。レビ記 18 章 16 節にはこう書かれています。16 あなたの兄弟の妻の裸をあらわにしてはならない。彼女の裸は、あなたの兄弟自身の裸である。また、レビ記 20 章 21 節にはこのように書かれています。21 人がもし、自分の兄弟の妻をめとるなら、それは忌まわしいことだ。彼はその兄弟の裸をあらわにしたのである。彼らは子のいない者となる。だからヨハネは、権力者ヘロデに向かって「あなたが兄弟の妻を自分のものにするのは、律法にかなっていない」と言い続けました。彼の命が脅かされる状況に追い込まれたのはこのためでした。ヘロディアは、ヨハネを殺害したいと強く思っていました。19 節から 20 節までを読みましょう。19 ヘロディアはヨハネを恨み、彼を殺したいと思いながら、できずにいた。20 それは、ヨハネが正しい聖なる人だと知っていたヘロデが、彼を恐れて保護し、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、喜んで耳を傾けていたからである。先ほど述べたように、当時既婚者であったヘロディアは、情欲にとりつかれたヘロデから求婚されますが、彼女はヘロデが妻と別れることを条件として提示しました。すると、ヘロデは無理やり自分の妻を離縁してしまった。これが事実ならば、ヘロディアは、彼自身の妻を離縁してまで自分を妻として迎えたヘロデに、自分に対する思いが本気だ、と受け止めたことでしょう。しかしヘロデは、「あなたが兄弟の妻を自分のものにするのは、律法にかなっていない」と彼を咎めているヨハネを、敬虔な者として迷信的に信奉していた。ヘロディアは、ヘロデは単純であり、その情欲を刺激すれば自分の言いなりになると見たはずです。ヘロデの妻であることで、彼の権力を利用して自分の欲望を満たす最高のポジションに立つことを、ヘロディアは強く感じたことでしょう。だから彼女は、この結婚を律法違反と否

定し続けるヨハネを殺害しなければならなかったのです。

ヘロデはヘロディアとヨハネ双方の主張のはざまに板挟み状態となり、ヨハネを処刑する事もできず、ヨハネを殺したいヘロディアを無視することもできず、まずは投獄という形でお茶を濁していたと考えられます。ところが、ヘロディアは娘と結託して、ヘロデの欲情と権力を利用してヨハネを斬首させてしまったのです。21 節から 23 節までを続けて読みましょう。21 ところが、良い機会が訪れた。ヘロデが自分の誕生日に、重臣や千人隊長、ガリラヤのおもだった人たちを招いて、祝宴を設けたときのことであった。22 ヘロディアの娘が入って来て踊りを踊り、ヘロデや列席の人々を喜ばせた。そこで王は少女に、「何でも欲しい物を求めなさい。おまえにあげよう」と言った。23 そして、「おまえが願う物なら、私の国の半分でも与えよう」と堅く誓った。ヘロディアの娘とは、先ほどお話ししたサロメのことです。この娘という単語には「コラシオン(κοράσιον)」が使われています。この単語は 12~14 歳の結婚可能な年齢の女性を意味します。ヘロデは、ヘロディアの娘サロメに対しても、どうやら情欲を抱いたようです。レビ記 20 章 14 節によれば、これも明らかな律法違反でした。14 人がもし女をその母とともに妻としたなら、それは淫らなことである。その人もその女たちもともに、火で焼かれなければならない。あなたがたの間で淫らな行為がないようにするためである。おそらく、ヘロデは酔い痴れて、娘であるサロメに対する情欲が燃え上がり、周囲の前で「私の国の半分でも与えよう」などと大言壮語したのかもしれませんが。24 節から 28 節をよみましょう。24 そこで少女は出て行って、母親に言った。「何を願いましょうか。」すると母親は言った。「バプテスマのヨハネの首を。」25 少女はすぐに、王のところに急いで行って願った。「今すぐに、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて、いただきとうございます。」26 王は非常に心を痛めたが、自分が誓ったことであり、列席の人たちの手前もあって、少女の願いを退けたくなかった。27 そこで、すぐに護衛兵を遣わして、ヨハネの首を持って来るように命じた。護衛兵は行って、牢の中でヨハネの首をはね、28 その首を盆に載せて持って来て、少女に渡した。少女はそれを母親に渡した。ヘロディアは、ヘロデが催した宴会場に、ヨハネの首を料理であるかのように運ばせました。ヘロディアには欲望を満たす事しか頭にありませんでした。彼女は欲望を遂げたことを誇示することに夢中でした。彼女の良心は、もはやマヒしていたようです。結局、ヘロデとヘロディアとは、自分自身の欲望に何よりも忠実であった性分において、似た者夫婦であったようです。

以上、バプテスマのヨハネが殉教を遂げるまでの物語を皆さんと読んでいきました。彼の死がわたしたちに語ることは何か。3つのポイントにまとめます。第1のポイントは、わたしたちの罪を、罪として明らかにするものは律法であるということです。第2のポイントは、他者から「あなたは罪を犯している」と言われると、わたしたちは罪から離れるどころか、ますます罪を重ねてしまうことです。パウロがまさにローマ人の手紙 7 章 14 節から 15 節の中で指摘しているとおりで、14 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は肉的な者であり、売り渡されて罪の下にある者です。15 私には、自分のしていることが分かりません。自分がしたいと願うことはせずに、むしろ自分が憎んでいることを行っているからです。第3のポイントは、わたしたちは罪の問題を解決するために、イエス様の救いを待たなければならなかったことです。

ここからは、第3のポイントであるイエス様の救いについて詳しく見ていきます。29 節をよみましょう。29 このことを聞いたヨハネの弟子たちは、やって来て遺体を引き取り、墓に納めたのであった。マタイの福音書 14 章やヨハネの福音書 3 章を読むと、ヨハネの弟子たちの中からイエス

様に従う者に加わった者が出ました。また、使徒の働き 18 章から 19 章を読むと、ヨハネの弟子たちの一部は、来たるべきメシアを待ち望む分派を形成したものの、後にイエス様に合流しました。バプテスマのヨハネの弟子たちを受け入れたイエス様の宣教活動はさらに活発化していきます。ユダヤ人たち、とくに祭司や律法学者たちは、ユダヤの人々がイエス様に病を癒して頂こうと彼に群がる様子、その教えを聴こうとイエス様に群がる様子を見るようになりました。マルコの福音書 12 章を読むと、祭司や律法学者たちは、イエス様をメシアとして歓迎したのではなく、ユダヤの人々の上に君臨した自分たちの権威や肩書、その権威や肩書が彼らにもたらした経済的な恩恵を、イエス様の登場によって脅かされたと感じました。彼らはイエス様の人気に対して嫉妬や妬みを起こしました。やがて彼らは、イエス様に対して同様な利害関係の脅威や思いを抱く者同士で結託しました。彼らは、神の律法を自らの権威を振りかざす道具として悪用し、イエス様への殺意を正当化し始めました。ルカの福音書 23 章には、彼らがピラトへ上訴し、彼の権力を利用して、イエス様の罪をでっちあげて、処刑を実行してしまったことが書かれています。これがユダヤ人たちの内なる罪の姿です。イエス様ご自身は、ユダヤ人の祭司や律法学者の妬みや憎悪を甘んじて受け入れました。彼らをご自分を殺すために律法を悪用し、殺害を正当化する姿を甘んじて受け入れました。イエス様は彼らの罪を甘んじて受け入れたのです。イエス様は彼らに十字架につけられて殺される道を自ら知っており、その道を選択していました。ルカの福音書 18 章 31 節から 33 節にはこう書かれています。31 さて、イエスは十二人をそばに呼んで、彼らに話された。「ご覧なさい。わたしたちはエルサレムに上って行きます。人の子について、預言者たちを通して書き記されているすべてのことが実現するのです。32 人の子は異邦人に引き渡され、彼らに嘲られ、辱められ、唾をかけられます。33 彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」これがイエス様の公生涯における目的でした。

イエス様の十字架と復活は福音の真理です。この真理の中にこそ、ヘロデもヘロディアもバプテスマのヨハネでさえも解決できなかった罪の問題に対する解決策が秘められています。神は、ユダヤ人祭司や律法学者の罪をイエス様の罪とされて、死という対価を十字架の上で支払わせました。コリント人への手紙第二 5 章 21 節に書かれているとおりです。21 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。このイエス様の十字架が成し遂げられた瞬間から、イエス様の救いが人類に与えられました。わたしたちが自分の罪を自覚して、イエス様にこの罪を悔い改めるならば、イエス様が私たちの代わりに罪とされて十字架にかかって死んで下さったこととなります。わたしたちは、神がイエス様を復活させたと信じるならば、その信仰によって神の義を得られるようになるのです。ローマ人への手紙 10 章 9 節に書かれているとおりです。9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。ヘロデやヘロディアのように情欲に溺れて、禁忌すべき関係を犯した者がいたとしても、そんな関係によって生まれた者がいたとしても、もしも、彼らが自分の罪を自覚することができたならば、あるいは、自分の出自が呪われていると認めることができたならば、その罪をイエス様に悔改めることができるのです。その呪いをイエス様に明け渡すことができるのです。すると、イエス様への信仰によって、誰も例外なく、神の義を得ることができるのです。ヨハネ 1 章 12 節から 13 節にはこう書かれています。12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。バプテスマのヨハネは、ヘロデに向かって律法に立ち返るように説き続けました。ヘロデが罪を認めて悔い改めることができたならば、このイエス様の救いに預かる道筋も見えていたに違いありません。わたし

私たちはヘロデやヘロディアのように律法を守りとおすことはできませんから、罪には無力です。しかし、こんなわたしたちが律法を成就させる唯一の道は、イエス様の救いなのです。マタイの福音書 5 章 17 節にまさに書かれているとおりです。17 わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、とってはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。

イエス様への信仰に生きる者は、これまで断絶していた神と自分との関係が修復されます。そして神との間に平和が与えられます。イエス様の救いを受け入れた者には聖霊が注がれます。エペソ人への手紙 1 章 13 節にはこう書かれています。13 このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。そして、この聖霊の実りがわたしたちに下されます。ガラテヤ人への手紙 5 章 22 節から 23 節にはこう書かれています。22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。具体的には、欲望や色欲だけに基づく男女関係が、聖霊の実りによって、神に祝福された男女関係へと修復されます。創世記 2 章 24 節に神がこの祝福を宣言しています。24 それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。男女関係が神に祝福される形に修復されると、今度は断絶していた家族関係が、聖霊の実りによって神に祝福された家族関係へと修復されます。断絶していた友人関係が、聖霊の実りによって神に祝福された友人関係へと修復されます。職場の人間関係が、聖霊の実りによって神に祝福された職場の人間関係へと修復されます。まさにエペソ人への手紙 2 章 14 から 16 節に書かれているとおりのことが実現するのです。14 実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、15 様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、16 二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。

イエス様への信仰によって、わたしたちが抱えていた断絶した人間関係に、聖霊様の実りによる和解がもたらされると、イエス様の愛を実感するようになります。すると、イエス様はわたしたちに教会や宣教に関わるミニストリーを命じられ、それらを大きく祝福して下さるようになります。ヨハネの福音書 21 章 17 節に書かれているとおりです。17 イエスは三度目もペテロに、「ヨハネの子シモン、あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは、イエスが三度目も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは私があなたを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

みなさんは今、イエス様を学ぶためではなく、礼拝するために、この場におられます。さて、あなたの心の目はイエス・キリストがあなたの罪を引き受けて十字架につけられた姿を、はっきりと見えていますか。

みなさんは今、イエス様の救いについて御言葉を聞きました。さて、あなたはこの救いを本当に受け入れていますか。むしろ、受け入れたい、信じたいと自分から願っていますか。つまり、信じていますか。

みなさんは今、聖霊に導かれて礼拝を捧げています。さて、あなたは自分自身の内に聖霊様を本当に認めていますか。「聖霊様、どうか私の内で働いてください」と自分から願っていますか。

みなさん、聖書の知識を持つことや、聖書を頭で理解することで満足するのではなく、どうかイエス様への信仰を持って下さい。

祈りましょう。

Mark 6:14-29 The death of John the Baptist”

John the Baptist continued to reveal that Jesus was the Messiah to his disciples and the Jews. Around the time of his death, Jesus began his mission. We have already studied these things in Mark Chapter 1. Today's Bible verses describe the circumstances that led to John the Baptist's death. First, let's read through today's passage. Then, we will review three points about what the death of John the Baptist tells us. Finally, we will look into the third point in detail.

Why was John's life threatened? Let's read verses 14 through 16. ¹⁴ King Herod heard of it, for Jesus' name had become known. Some said, “John the Baptist has been raised from the dead. That is why these miraculous powers are at work in him.” ¹⁵ But others said, “He is Elijah.” And others said, “He is a prophet, like one of the prophets of old.” ¹⁶ But when Herod heard of it, he said, “John, whom I beheaded, has been raised.” King Herod, here, is Herod Antipas, the lord who ruled over the regions of Galilee and Perea. He is hereinafter referred to as just Herod. In verse 16, Herod seems to say, “I have killed a wonderful prophet like Elijah. And John came out of his grave as a ghost to punish me.” He seems to be afraid of the Japanese term, *Bachi*, or *Bachi-ga-ataru*, which means that one is punished because of his/her evil deeds. Let's read verses 17 through 18. ¹⁷ For it was Herod who had sent and seized John and bound him in prison for the sake of Herodias, his brother Philip's wife, because he had married her. ¹⁸ For John had been saying to Herod, “It is not lawful for you to have your brother's wife.” According to one historian, Herodias was originally the wife of Herod's half-brother Herod Philip. They had a daughter named Salome. Herod divorced his own wife because he wanted Herodias, a married woman, to be his wife. This marriage between Herod and Herodias was in violation of the Jewish law. Leviticus 18:16 states that ¹⁶ You shall not uncover the nakedness of your brother's wife; it is your brother's nakedness. Also, Leviticus 20:21 says ²¹ If a man takes his brother's wife, it is impurity. He has uncovered his brother's nakedness; they shall be childless. So, John the Baptist kept saying to Herod, the ruler of the land, “It is not lawful for you to have your brother's wife.” For this reason, his life was threatened. Herodias strongly desired to kill John.

Let's read verses 19 through 20. ¹⁹ And Herodias had a grudge against him and wanted to put him to death. But she could not, ²⁰ for Herod feared John, knowing that he was a righteous and holy man, and he kept him safe. When he heard him, he was greatly perplexed, and yet he heard him gladly. As mentioned earlier, Herodias, who was married at the time, was proposed by Herod, who was obsessed with lust. Herodias offered him the condition for marriage, which was for him to leave his wife. Then Herod left his wife. Witnessing Herod divorcing his wife, Herodias would have assumed that Herod was serious about the marriage. At the same time, however, Herod superstitiously believed John was a pious man, and John continued to condemn him by saying, “It is not lawful for you to have your brother's wife”. Herodias must have assumed that Herod was a simpleton who would do her bidding as long as she aroused his lust. She strongly desired to be able to use Herod's power for her desires

by becoming his wife. This is why she had to kill John the Baptist, who kept criticising this marriage.

Herod was caught between the two sides, Herodias and John the Baptist. On the one hand, he was unable to execute John because of his belief, but on the other hand, he could not ignore Herodias' desire to kill John because of his lust. Herod was avoiding the main issue of killing John by imprisoning him. However, Herodias colluded with her daughter. She was able to behead John the Baptist by exploiting Herod's lust and power. Let's continue reading verses 21 through 23. ²¹ But an opportunity came when Herod on his birthday gave a banquet for his nobles and military commanders and the leading men of Galilee. ²² For when Herodias's daughter came in and danced, she pleased Herod and his guests. And the king said to the girl, "Ask me for whatever you wish, and I will give it to you." ²³ And he vowed to her, "Whatever you ask me, I will give you, up to half of my kingdom." Herodias' daughter is Salome, whom I mentioned earlier. In this verse, the word "korasion (κοράσιον)" is used for the term daughter. This word means a woman of marriageable age, between 12 and 14. Herod apparently had a lust for Salome. This was also a clear violation of the law, according to Leviticus 20:14. ¹⁴ If a man takes a woman and her mother also, it is depravity; he and they shall be burned with fire, that there may be no depravity among you. Perhaps Herod, in his drunken stupor, got inflamed with his lust for his daughter, Salome, and spoke in front of others, "I will give you up to half of my kingdom". Let's read verses 24 through 28. ²⁴ And she went out and said to her mother, "For what should I ask?" And she said, "The head of John the Baptist." ²⁵ And she came in immediately with haste to the king and asked, saying, "I want you to give me at once the head of John the Baptist on a platter." ²⁶ And the king was exceedingly sorry, but because of his oaths and his guests he did not want to break his word to her. ²⁷ And immediately the king sent an executioner with orders to bring John's head. He went and beheaded him in the prison ²⁸ and brought his head on a platter and gave it to the girl, and the girl gave it to her mother. Herodias had John's head brought to the banquet hall as if it were one of the banquet dishes. She had only one thing on her mind: fulfilling her own desires. She was preoccupied with showing off that she fulfilled her desires, and her conscience seemed paralysed. To this end, Herod and Herodias seem to have been a couple of like minds in their nature of being loyal to their own desires.

So far, we have been reading the stories of John the Baptist's death. What does his death tell us? I think there are three main points. The first point is that **the law reveals our sins**. The second point is that **when others tell us that we are sinning, we sin more rather than turning away from our sins**. Paul tells us exactly this point in Romans 7:14-15. ¹⁴ For we know that the law is spiritual, but I am of the flesh, sold under sin. ¹⁵ For I do not understand my own actions. For I do not do what I want, but I do the very thing I hate. The third point is that **we had to wait for Jesus to solve our sin problem**.

We will now take a closer look at the third point, Jesus' salvation. Let's read verse 29. ²⁹ When his disciples heard of it, they came and took his body and laid it in a tomb. In Matthew

chapter 14 and John chapter 3, we see that some of John's disciples started to follow Jesus. Also, in Acts chapters 18 and 19, some of John's disciples, who formed a group that awaited the coming Messiah, later joined Jesus' group. Because they joined Jesus' group, missionary activities were further accelerated. As it is written in Mark Chapter 12, the Jewish leaders, especially the priests and the Pharisees, witnessed the Jewish people coming to Jesus to be healed and to listen to his teachings. They did not welcome Jesus as the Messiah. Rather, they felt threatened by Jesus as he criticised their authority and entitlement. They became jealous and envious of Jesus' popularity. Eventually, they conspired with those who felt similar threats and harboured interests against Jesus. They misused God's law as a tool to justify their own authority and their intent to kill Jesus. In Luke chapter 23, we read how these Jewish leaders appealed to Pilate and used his power to fabricate charges against Jesus to carry out his execution. Here, we see their inner sin. Jesus himself accepted the envy and hatred of the Jewish priests and the Pharisees. Jesus knew that these Jewish leaders were misusing the law to kill him. Jesus came to earth knowing that he would be crucified and killed by them. He willingly chose this path. In Luke 18:31-33, it says ³¹ **And taking the twelve, he said to them, "See, we are going up to Jerusalem, and everything that is written about the Son of Man by the prophets will be accomplished. ³² For he will be delivered over to the Gentiles and will be mocked and shamefully treated and spit upon. ³³ And after flogging him, they will kill him, and on the third day he will rise."** This was Jesus' purpose in his public life.

Jesus' death on the cross and his resurrection are the fundamental truth of the gospel. It is in this truth that the solution to sin, which Herod, Herodias, and even John the Baptist could not provide, is hidden. God made Jesus pay the penalty for sin committed by the Jewish priests and the Pharisees by putting him on the cross. As it is written in 2 Corinthians 5:21. ²¹ **For our sake he made him to be sin who knew no sin, so that in him we might become the righteousness of God.** From the moment Jesus died on the cross, His salvation was given to mankind. **If we confess and repent our sins, then we accept that Jesus died on the cross for our sins. If we believe God has resurrected Jesus, God grants us His righteousness through our faith in Jesus.** Romans 10:9 says ⁹ **because, if you confess with your mouth that Jesus is Lord and believe in your heart that God raised him from the dead, you will be saved.** Even if someone like Herod and Herodias, committed adultery due to their lust, or even if someone born out of these adulterous relationships, as long as one is aware of their sins and sinful nature, one can confess and repent one's sin. One can surrender their sin and sinful nature to Jesus. Then, through faith in Jesus, everyone, without exception, can obtain the righteousness of God. John 1:12-13 says, ¹² **But to all who did receive him, who believed in his name, he gave the right to become children of God, ¹³ who were born, not of blood nor of the will of the flesh nor of the will of man, but of God.** John the Baptist continued to preach to Herod to return to the Law. If Herod had admitted his sin and repented, he could have received Jesus' salvation. We are helpless against sin because we cannot keep the Law just like Herod and Herodias could not. The only way for us to fulfil the Law is through Jesus' salvation as mentioned in Matthew 5:17. ¹⁷ **"Do not think that I have come to abolish the Law or the Prophets; I have not come to abolish**

them but to fulfill them.

God will restore his relationship with His people, those who believe in Jesus, which was previously severed or torn apart. God will grant his peace to them. God will pour out the Holy Spirit to them. Ephesians 1:13 says ¹³ In him you also, when you heard the word of truth, the gospel of your salvation, and believed in him, were sealed with the promised Holy Spirit. And those who believe in Jesus will receive the fruit of the Holy Spirit as it is written in Galatians 5:22-23. ²² But the fruit of the Spirit is love, joy, peace, patience, kindness, goodness, faithfulness, ²³ gentleness, self-control; against such things there is no law. More concretely, male-female relationships based solely on lust are restored to God-blessed male-female relationships through the fruit of the Holy Spirit. God declares this truth in Genesis 2:24. ²⁴ Therefore a man shall leave his father and his mother and hold fast to his wife, and they shall become one flesh.

The family relationship will be restored once the male-female relationship is restored to a God-blessed one. Also friendship will be restored once the male-female relationship is restored to a God-blessed one. Further, workplace relationships will be restored once the male-female relationship is restored to a God-blessed one. This is precisely what Ephesians 2:14-16 describes. ¹⁴ For he himself is our peace, who has made us both one and has broken down in his flesh the dividing wall of hostility ¹⁵ by abolishing the law of commandments expressed in ordinances, that he might create in himself one new man in place of the two, so making peace, ¹⁶ and might reconcile us both to God in one body through the cross, thereby killing the hostility. We can experience the love of Christ when our torn relationship is restored through the fruit of the Holy Spirit and our faith in Jesus Christ. Then, Jesus commands us to do missions, and He blesses us immensely. As John 21:17 says ¹⁷ He said to him the third time, "Simon, son of John, do you love me?" Peter was grieved because he said to him the third time, "Do you love me?" and he said to him, "Lord, you know everything; you know that I love you." Jesus said to him, "Feed my sheep.

Today, you came to YIBC, not to study Jesus, but to worship Him. Are your eyes and your heart focused on Jesus Christ who died on the cross for our sins?

Today, you have heard the Word of Jesus and His salvation. Are you eager to accept this salvation? Are you wanting to accept Jesus and believe Him? Do you believe in Him?

Today, you came to worship because you were led by the Holy Spirit. Are you accepting the Holy Spirit within yourself? Are you saying, "Holy Spirit, please work in me?"

My sincere hope is that everyone who is sitting in this worship is not satisfied with just having knowledge of the Bible in their head, but also to have faith in Jesus Christ, our Saviour.

Let's pray.